

健全化判断比率等における各指標について

実質赤字比率

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

福祉、教育、まちづくりなどを行う一般会計の実質的な赤字額が、市税等の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標。一般会計における財政運営の深刻度を示します。

連結実質赤字比率

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

[連結実質赤字額：全会計の赤字額（資金不足額）から黒字額（資金余剰額）を引いた額]

すべての会計の実質的な赤字額が、市税等の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標。市全体としての資金の不足の程度、財政運営の深刻度を示します。

西尾市の会計は、一般会計の他に、国民健康保険、介護保険、老人保健、公共下水道事業、農業集落排水事業、病院事業のそれぞれの会計があります。

実質公債費比率

$$\text{実質公債費比率} \\ (\text{3か年平均}) = \frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} \\ + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

[準元利償還金：一般会計の繰出金のうち公営企業債の償還に充てたものなど、公債費に準ずるもの]

公債費に準ずる経費もあわせた実質的な公債費が、市税等の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標。一般会計の資金繰りの危険度を示します。

将来負担比率

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額} - (\text{充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \\ \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$

[将来負担額：一般会計の地方債現在高、公営企業債のうち一般会計からの負担見込額、一般会計が負担する見込みの退職手当支給予定額、土地開発公社等の負担見込額など]

地方公共団体の一般会計の借入金（市債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高が、市税等の標準的な収入に対してどのくらいの割合になるかを示す指標。将来、市の財政が悪化する可能性が高いかどうかを示します。

資金不足比率

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$

[資金の不足額：一般会計の実質赤字額に相当するもの]

公営企業の資金不足を、公営企業の財政規模である料金収入の規模に対してどのくらいの割合になるかを示す指標。経営状況の深刻度を示します。